

# 「個人版私的整理ガイドライン」に関するアンケート調査 ◆報告書◆

平成26年3月27日



株式会社 **第一広告社**  
MARKETING & TOTAL COMMUNICATION

■ 調査概要	P3
■ 訪問仮設住宅一覧	P4
■ 回答者のプロフィール	P5
性別・年齢・居住地	P6
■ 調査結果の要約	P7
・よく見ている(聴いている)ものは何ですか？	P8
・移動手段としてよく利用するものは何ですか？	P9
・「個人債務者の私的整理に関するガイドライン」を知っていますか？	P10
・「A 知っている」とお答えの方 「個人版私的整理ガイドライン」を何で知りましたか？	P11
・「B 聞いたことはあるがよくわからない」とお答えの方 「個人版私的整理ガイドライン」についてどのようなイメージをお持ちですか？	P12
・「C 知らない」とお答えの方 「個人版私的整理ガイドライン」と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか？	P13
・今後のお住まいや住宅ローンについて 今後の住まいについてどうお考えですか？	P14
・今後の住まいについてどうお考えですか？ 「A すでに次のお住まいが決まっている」とお答えの方	P15
・今現在、東日本大震災により住めなくなった家のローン債務が残っていますか？	P16
・「A 残っている」とお答えの方 あなたは「個人版私的整理ガイドライン」を知っていますか？	P17
・「B 残っていない」とお答えの方 あなたは「個人版私的整理ガイドライン」を知っていますか？	P18
・「A 残っている」とお答えの方 住宅ローンの返済はどのようにされていますか？	P19
・「A 残っている」とお答えの方 「個人版私的整理ガイドライン」を実際に利用されたましたか？	P20
※各項目理由	P21
■ 要約 総括	P22

## ■調査概要

- 調査対象 岩手県・宮城県・福島県の応急仮設住宅に住む男女18歳以上
- 調査地域 岩手県【陸前高田・大船渡・釜石・大槌】  
宮城県【石巻・仙台・名取・岩沼・気仙沼】  
福島県【いわき・相馬・南相馬】
- 調査方法 調査承諾を受けた仮設住宅を訪ね、一軒ごとに回答の可否を頂き、アンケート用紙を回収もしくは郵送。
- 調査時期 2014年3月8日(土)～16日(日) ※3月11日を除く
- 有効回答数 1, 113サンプル

県	地域	目標	回収済数									計	郵送	県計
			8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日			
宮城 (500)	石巻	300	101	54	79		108					342	15	608
	仙台・名取・岩沼	200					60	96	31		187	5		
	気仙沼	150					59				59			
岩手 (350)	陸前高田						69	13	23	14	119	11	328	
	大船渡	100						29	33	47	109			
	釜石	50				51					51			
	大槌	50			22	16					38			
福島 (150)	いわき	50			21	48					69	1	177	
	相馬	50					10	11		18	39			
	南相馬	50						24	42		66	2		
	【合計】	1,000									1,079	34	1113	

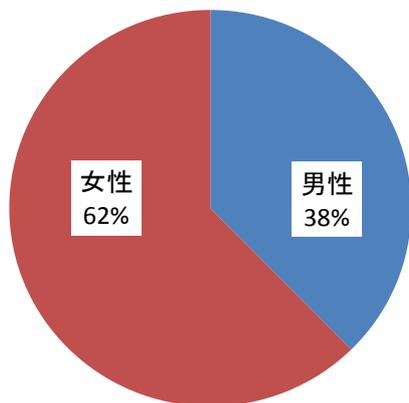
# ■訪問仮設住宅一覽

No.	エリア	市町村	名称	住所	戸数
1	宮城県	石巻市	開成第八団地	宮城県石巻市開成	47
2			開成第九団地	宮城県石巻市開成	38
3			開成第十団地	宮城県石巻市開成	70
4			開成第十一団地	宮城県石巻市開成	277
5			開成第十二団地	宮城県石巻市開成	184
6			蛇田中央公園仮設	宮城県石巻市向陽町4丁目7-1	113
7			向陽町仮設住宅	宮城県石巻市向陽町5丁目13-1 5丁目15-1	131
8			石巻運動公園(第7地区)	宮城県石巻市南境字新小堤18	338
9			大橋仮設	宮城県石巻市大橋1丁目	466
10		気仙沼市	五右衛門ヶ原野球場住宅	宮城県気仙沼市下八瀬435-3	103
11		仙台市	扇町一丁目公園仮設住宅	仙台市宮城野区扇町1-4-1	97
12			扇町四丁目公園仮設住宅	仙台市宮城野区扇町4-9-1	65
13		名取市	美田園第一	宮城県名取市美田園1-8-1	110
14			美田園第二	宮城県名取市美田園5-2-3	92
15			愛島東部	宮城県名取市愛島笠島字西小泉68-38-1	146
16		岩沼市	里の杜西住宅	宮城県岩沼市里の杜1丁目2-50	121
17			里の杜南住宅	宮城県岩沼市里の杜2丁目1-12	54
18			里の杜東住宅	宮城県岩沼市里の杜3丁目4-5	132
19	福島県	相馬市	大野台第一仮設	相馬市大野台1丁目・2丁目 L-3地区	135
20			大野台第二仮設	相馬市大野台1丁目・2丁目 L-2-2地区	156
21		南相馬市	鹿島区寺内字塚合100他	南相馬市鹿島区寺内字塚合100	174
22			鹿島区小池字長沼212-2他	南相馬市鹿島区小池字長沼212-2	200
23		いわき市	いわき市高久第九応急仮設住宅	いわき市平下山口字桃木沢3-1	202
24			いわき市高久第十応急仮設住宅	いわき市平下山口字大沢1-7	200
25	岩手県	大船渡市	大船渡市大船渡町永沢仮設団地	大船渡市大船渡町字永沢94-1	138
26			大船渡市末崎町大田仮設団地	大船渡市末崎町字大田142-10	134
27			大船渡市猪川町長洞第1・第2・第3仮設団地	大船渡市猪川町長洞62-1他	308
28			陸前高田市横田町久連坪仮設団地	陸前高田市横田町字久連坪17-1	94
29		陸前高田市広田町大久保第2仮設団地	陸前高田市広田町大久保124-1	132	
30		陸前高田市小友町瀬沢第2仮設団地	陸前高田市小友町字瀬沢155-78	108	
31		陸前高田市米崎町川内応急仮設住宅	陸前高田市米崎町字川内 付近	60	
32		陸前高田市米崎町神田仮設団地	陸前高田市米崎町字神田 付近	89	
33		陸前高田市米崎町和野仮設団地	陸前高田市米崎町字和野 付近	18	
34		陸前高田市米崎町西風道仮設団地	陸前高田市米崎町字西風道 付近	36	
35		陸前高田市米崎町和方仮設団地	陸前高田市米崎町字西風道 付近	8	
36		陸前高田市米崎町堂の前仮設団地	陸前高田市米崎町字堂の前 付近	13	
37		陸前高田市米崎町佐野仮設団地	陸前高田市米崎町字佐野 付近	40	
38		釜石市	釜石市鶴住居町第2仮設団地	釜石市鶴住居町第29地割地内	199
39			釜石市天神町仮設団地	釜石市天神町5	139
40		大槌町	大槌町大槌第5仮設団地	上閉伊郡大槌町大槌第5地割恵水講地内	273
41			大槌町小槌第8仮設団地	上閉伊郡大槌町小槌第21地割地内	120

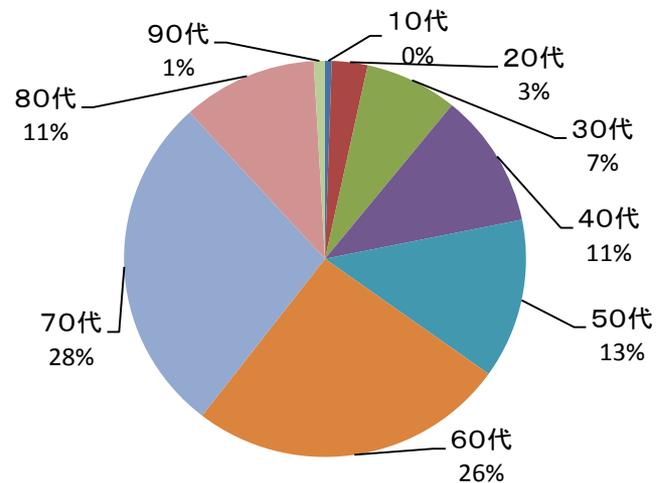
## 回答者のプロフィール

## ■回答者の全体プロフィール(n=1,113)

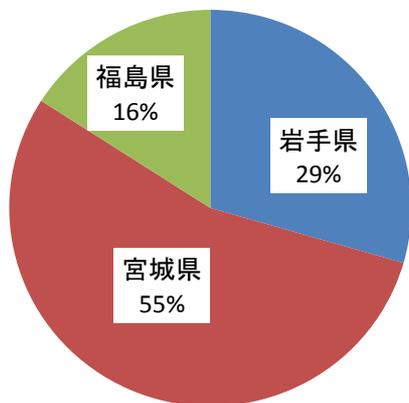
### ■性別



### ■年齢



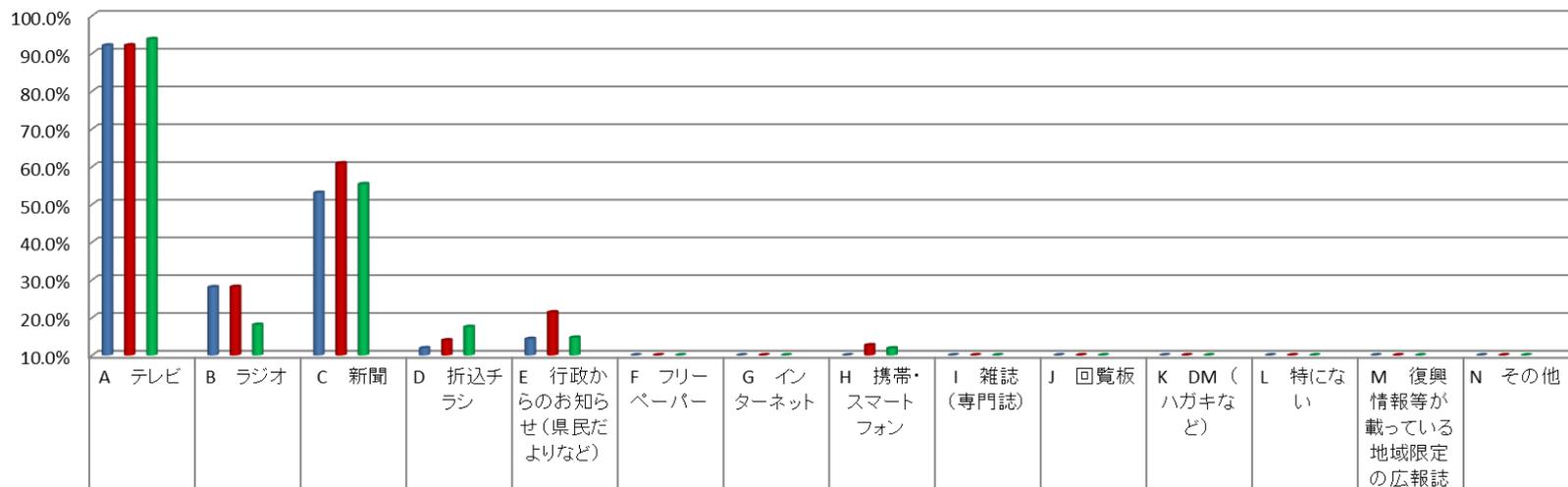
### ■居住地(県別)



## 調査結果の要約

## ■ 調査結果の要約

質問:あなたがよく見ている(聴いている)ものは何ですか?(上位3つをお選びください) ※上位3つ以上は切り捨て集計



	A テレビ	B ラジオ	C 新聞	D 折込チラシ	E 行政からのお知らせ(県民だよりなど)	F フリーペーパー	G インターネット	H 携帯・スマートフォン	I 雑誌(専門誌)	J 回覧板	K DM(ハガキなど)	L 特にない	M 復興情報等が載っている地域限定の広報誌	N その他
■岩手県(n=328)	92.1%	28.0%	53.0%	11.9%	14.3%	1.2%	6.4%	9.1%	1.2%	7.6%	0.3%	1.2%	2.4%	0.3%
岩手県回答数	302	92	174	39	47	4	21	30	4	25	1	4	8	1
■宮城県(n=608)	92.1%	28.1%	60.9%	14.0%	21.4%	0.5%	7.4%	12.7%	2.6%	8.6%	0.0%	3.0%	3.1%	0.2%
宮城県回答数	560	171	370	85	130	3	45	77	16	52	0	18	19	1
■福島県(n=177)	93.8%	18.1%	55.4%	17.5%	14.7%	0.0%	6.8%	11.9%	2.8%	6.8%	1.7%	2.3%	6.8%	0.0%
福島県回答数	166	32	98	31	26	0	12	21	5	12	3	4	12	0
合計(n=1113)	92.4%	26.5%	57.7%	13.9%	18.2%	0.6%	7.0%	11.5%	2.2%	8.0%	0.4%	2.3%	3.5%	0.2%
合計回答数	1028	295	642	155	203	7	78	128	25	89	4	26	39	2

### 【M 復興情報等が載っている地域限定の広報誌】の主な内容

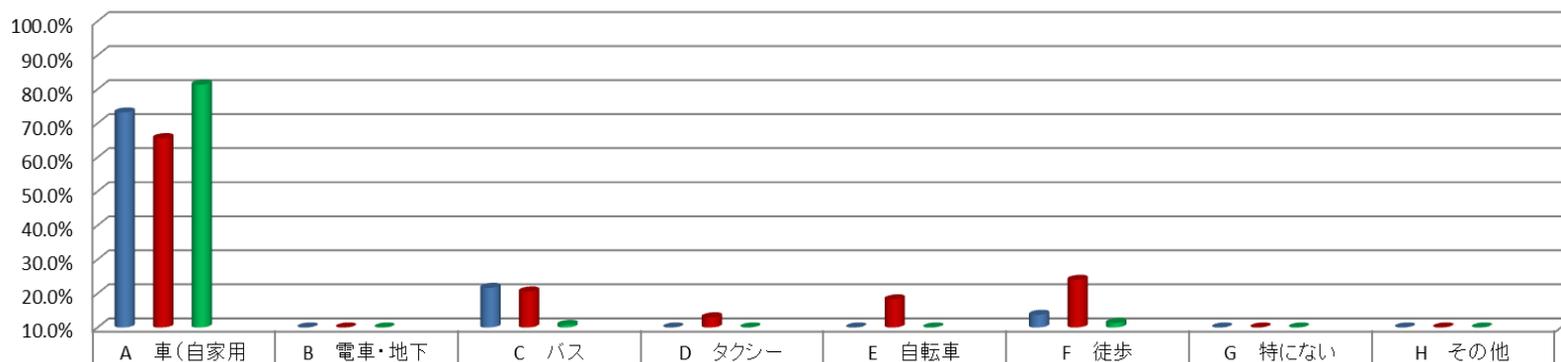
岩手県:復興だより  
 宮城県:きずな新聞、市報  
 福島県:なじよ寛一、ならは、市政だより、広報そうま

### 【N その他】の主な内容

口コミ、本

## ■ 調査結果の要約

質問:あなたが移動手段としてよく利用するものは何ですか？(複数回答可)



	A 車(自家用車)	B 電車・地下鉄	C バス	D タクシー	E 自転車	F 徒歩	G 特にない	H その他
■岩手県 (n=328)	73.2%	0.9%	21.6%	8.5%	3.0%	13.7%	0.0%	1.8%
岩手県回答数	240	3	71	28	10	45	0	6
■宮城県 (n=608)	65.6%	7.9%	20.6%	13.0%	18.3%	24.0%	0.0%	2.8%
宮城県回答数	399	48	125	79	111	146	0	17
■福島県 (n=177)	81.4%	1.7%	10.7%	2.3%	4.0%	11.3%	1.1%	3.4%
福島県回答数	144	3	19	4	7	20	2	6
合計 (n=1113)	70.4%	4.9%	19.3%	10.0%	11.5%	19.0%	0.2%	2.6%
合計回答数	783	54	215	111	128	211	2	29

### 【H その他】の主な内容

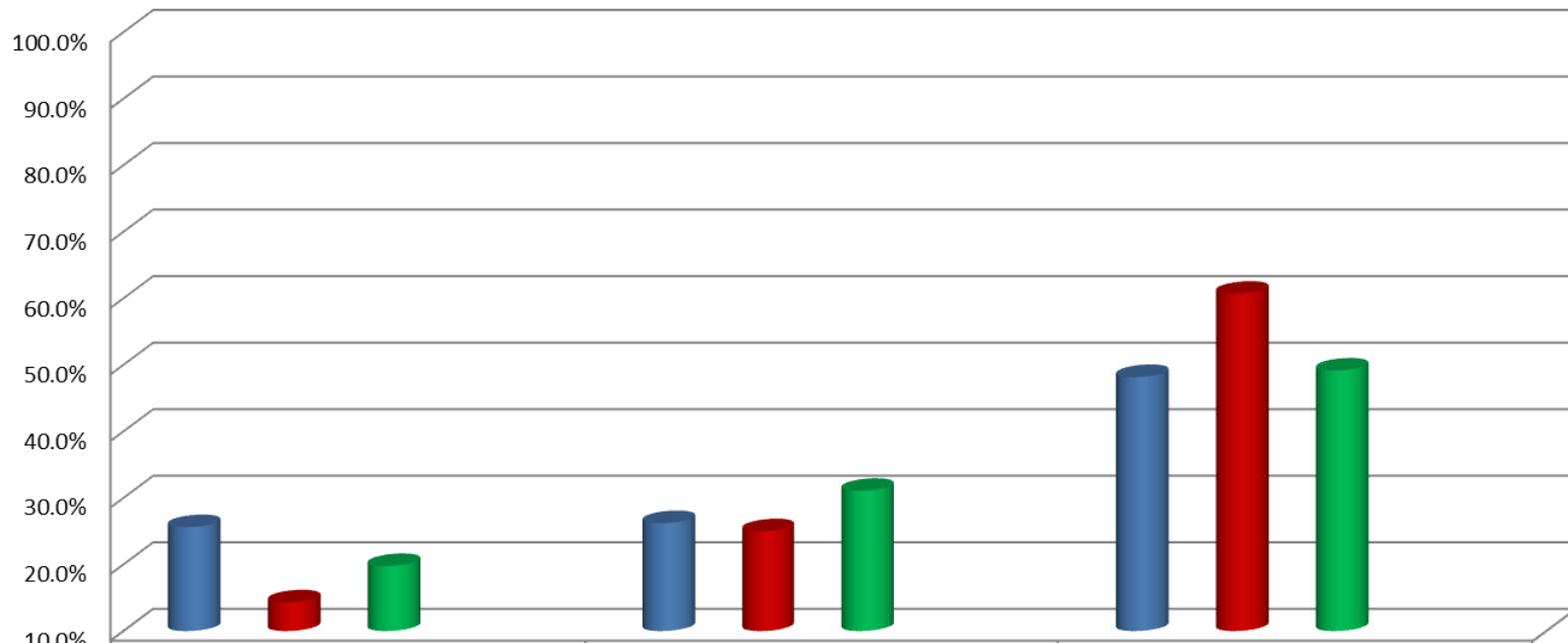
岩手県:バイク、家族の車、孫の車、息子の車

宮城県:バイク、友人の車、ボランティアの車、カーシェアリング、NPOの支援車、シルバーカー、娘の車、社用車、乗り合いタクシー

福島県:バイク、子供の車、友人の車、娘の車、送迎車

## ■調査結果の要約

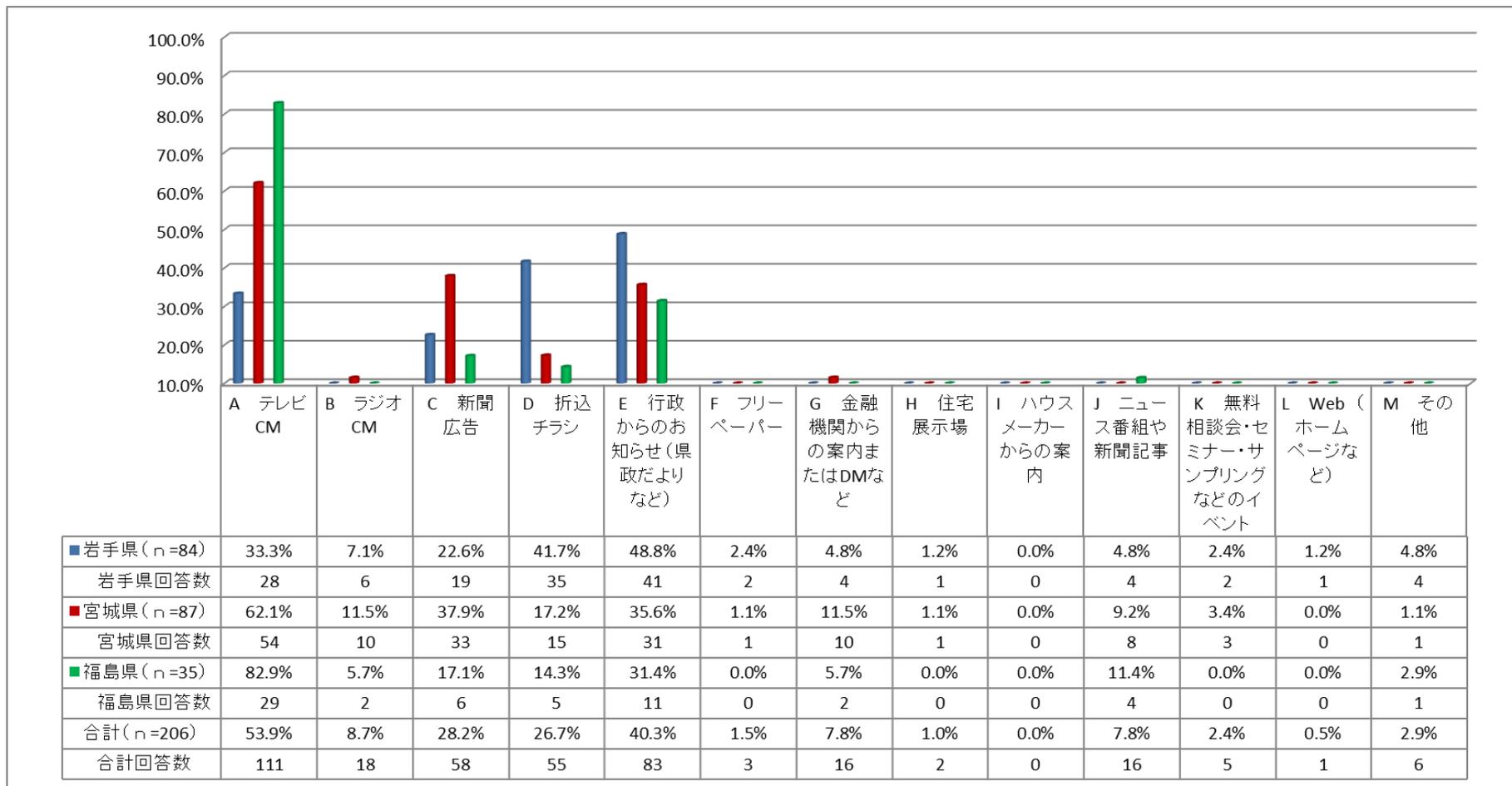
質問:あなたは「個人債務者の私的整理に関するガイドライン」(以下、「個人版私的整理ガイドライン」とします)を知っていますか？



	A 知っている	B 聞いたことはあるがよくわからない	C 知らない
■岩手県 (n=328)	25.6%	26.2%	48.2%
岩手県回答数	84	86	158
■宮城県 (n=608)	14.3%	25.0%	60.7%
宮城県回答数	87	152	369
■福島県 (n=177)	19.8%	31.1%	49.2%
福島県回答数	35	55	87
合計 (n=1113)	18.5%	26.3%	55.2%
合計回答数	206	293	614

## ■調査結果の要約

質問:「A 知っている」とお答えの方にご質問です。「個人版私的整理ガイドライン」を何で知りましたか？(主なものを最大3つまで)  
※3つ以上は切り捨て集計



### 【M その他】の主な内容

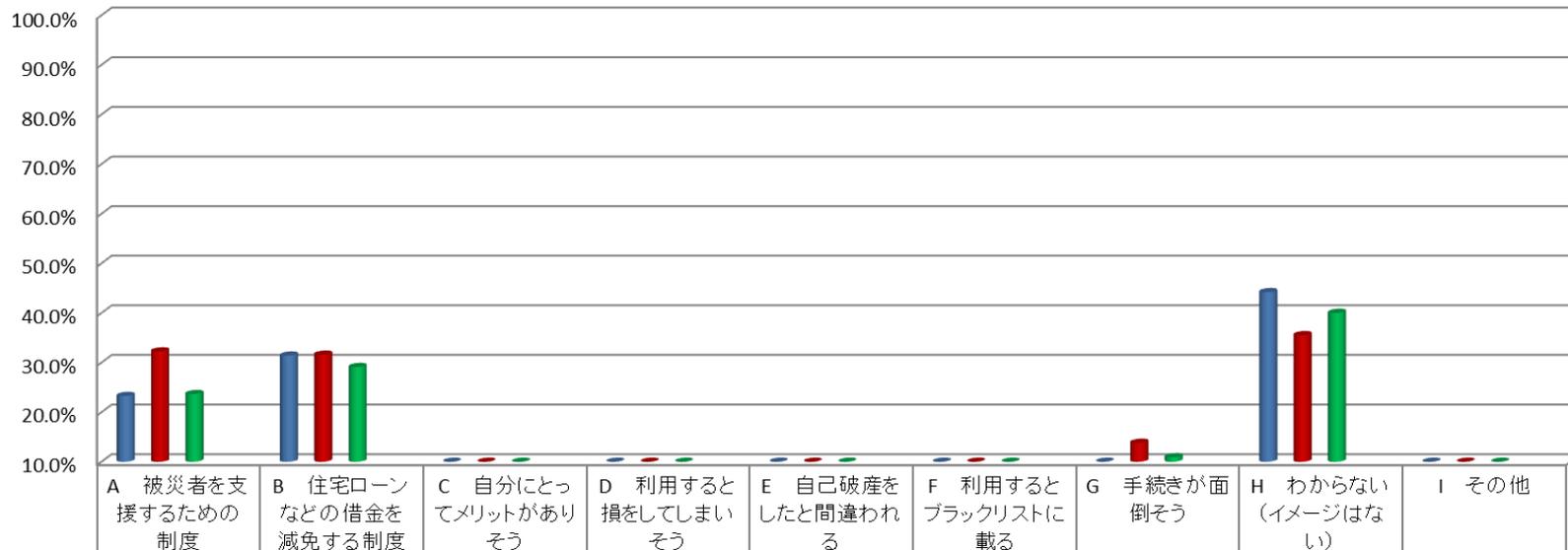
岩手県:過去にお世話になった

宮城県:集会所に掲示されたポスター

福島県:娘から聞いた

## ■ 調査結果の要約

質問:「B 聞いたことはあるがよくわからない」とお答えの方にご質問です。「個人版私的整理ガイドライン」についてどのようなイメージをお持ちですか？(複数回答可)



### 【I その他】の主な内容

興味はない、半信半疑

## ■ 調査結果の要約

質問:「C 知らない」とお答えの方にご質問です。「個人版私的整理ガイドライン」と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか？(複数回答可)



### 【I その他】の主な内容

信じにくい、利用しなくてもよさそう

## ■調査結果の要約

質問: 今後のお住まいや住宅ローンについてのご質問です。あなたは今後の住まいについてどうお考えですか？



岩手県回答数	153	74	10	29	2	51	9
宮城県回答数	309	148	25	39	12	56	19
福島県回答数	92	8	13	6	6	34	18
合計回答数	554	230	48	74	20	141	46

### 【G その他】の主な内容

岩手県: 迷っている、分からない、元の家の近くにある自分の土地に建てたい

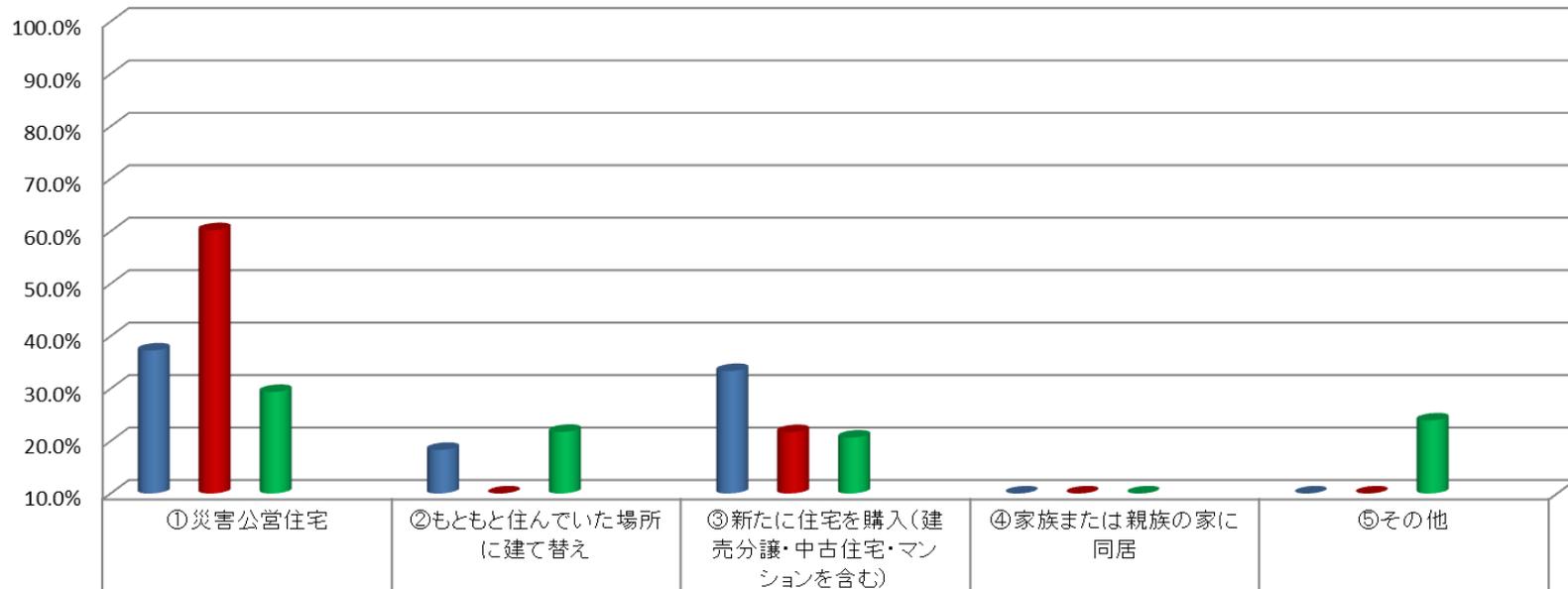
宮城県: 現在の地域に住みたい、新築予定、県外に住みたい、便利な所に住みたい、集団移転したい、仮設住宅のままでいい

福島県: 自宅に帰りたい、すべて息子に任せている、分からない

## ■調査結果の要約

質問: 今後のお住まいや住宅ローンについてのご質問です。あなたは今後の住まいについてどうお考えですか？

「A すでに次のお住まいが決まっている」とお答えの方(その場合、①～⑤のいずれかをお選びください)



岩手県回答数	57	28	51	5	12
宮城県回答数	186	23	67	16	17
福島県回答数	27	20	19	4	22
合計回答数	270	71	137	25	51

### 【⑤ その他】の主な内容

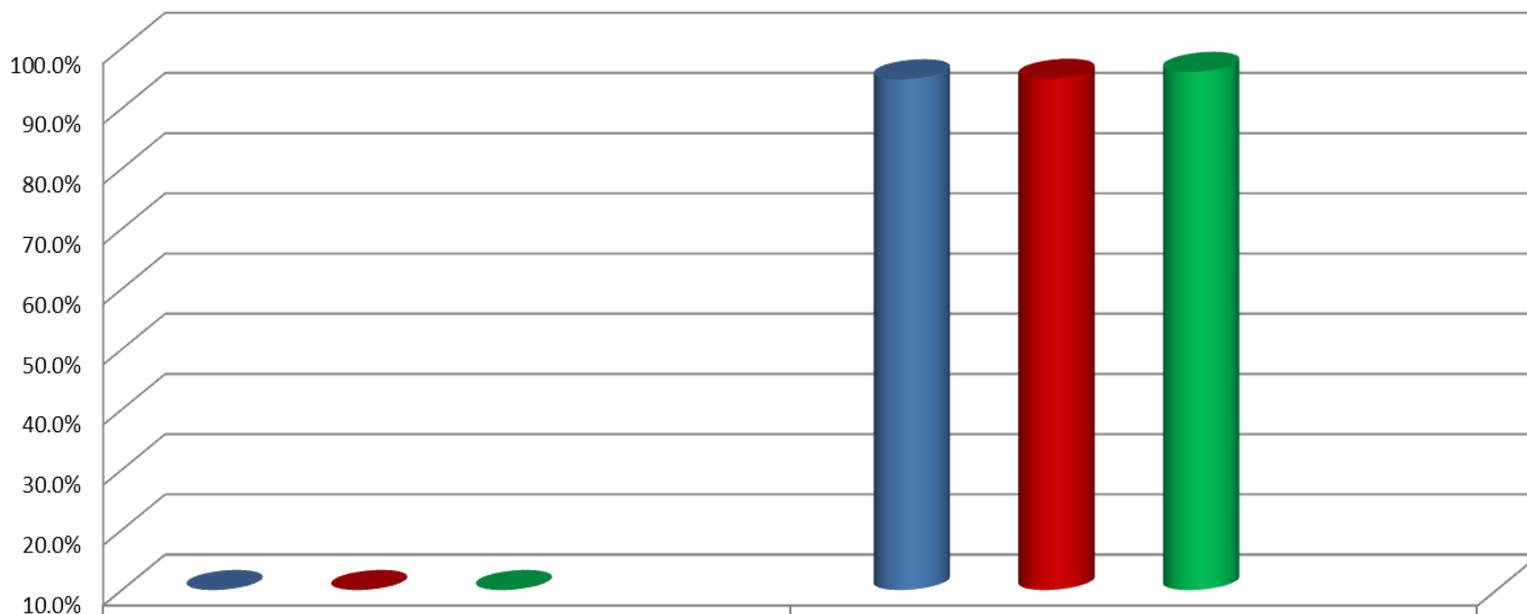
岩手県: 集団移転、高台移転、リフォームして住む

宮城県: 集団移転、代替地での再建、新築済み

福島県: 自宅に帰る、代替地での再建、リフォームして住む

## ■調査結果の要約

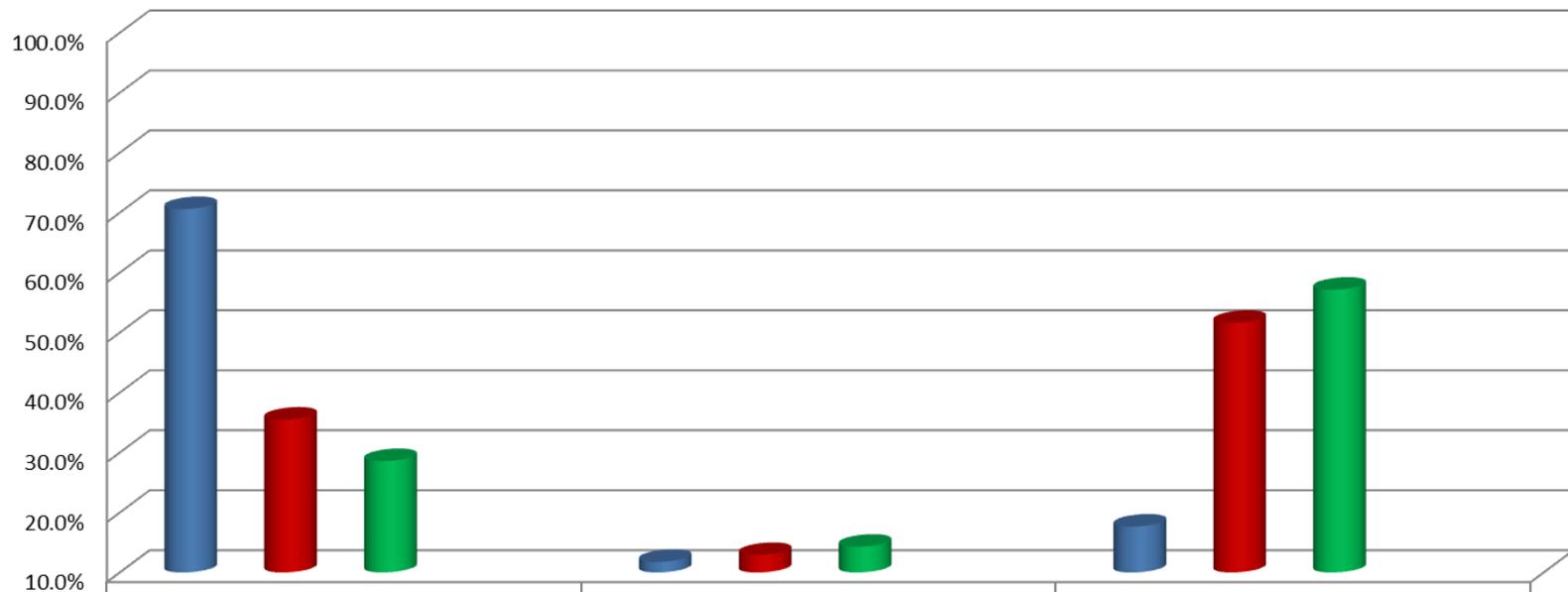
質問:あなたは、今現在、東日本大震災により住めなくなった家のローン債務が残っていますか？



	A 残っている	B 残ってない
■岩手県 (n=328)	5.2%	94.8%
岩手県回答数	17	311
■宮城県 (n=608)	5.1%	94.9%
宮城県回答数	31	577
■福島県 (n=177)	4.0%	96.0%
福島県回答数	7	170
合計 (n=1113)	4.9%	95.1%
合計回答数	55	1,058

## ■ 調査結果の要約

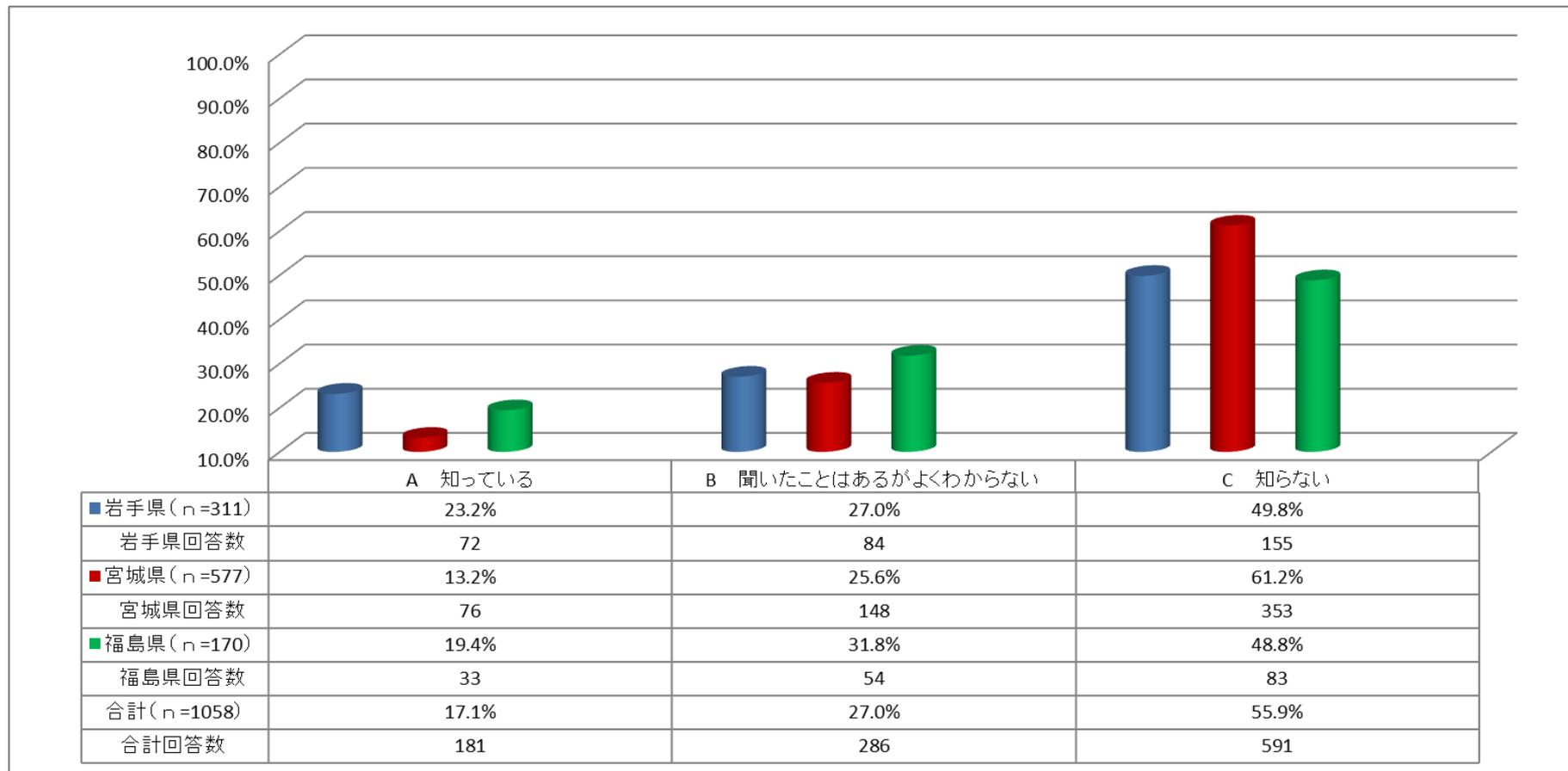
質問:「A 残っている」とお答えの方に質問です。あなたは「個人版私的整理ガイドライン」を知っていますか？



	A 知っている	B 聞いたことはあるがよくわからない	C 知らない
■ 岩手県 (n=17)	70.6%	11.8%	17.6%
岩手県回答数	12	2	3
■ 宮城県 (n=31)	35.5%	12.9%	51.6%
宮城県回答数	11	4	16
■ 福島県 (n=7)	28.6%	14.3%	57.1%
福島県回答数	2	1	4
合計 (n=55)	45.5%	12.7%	41.8%
合計回答数	25	7	23

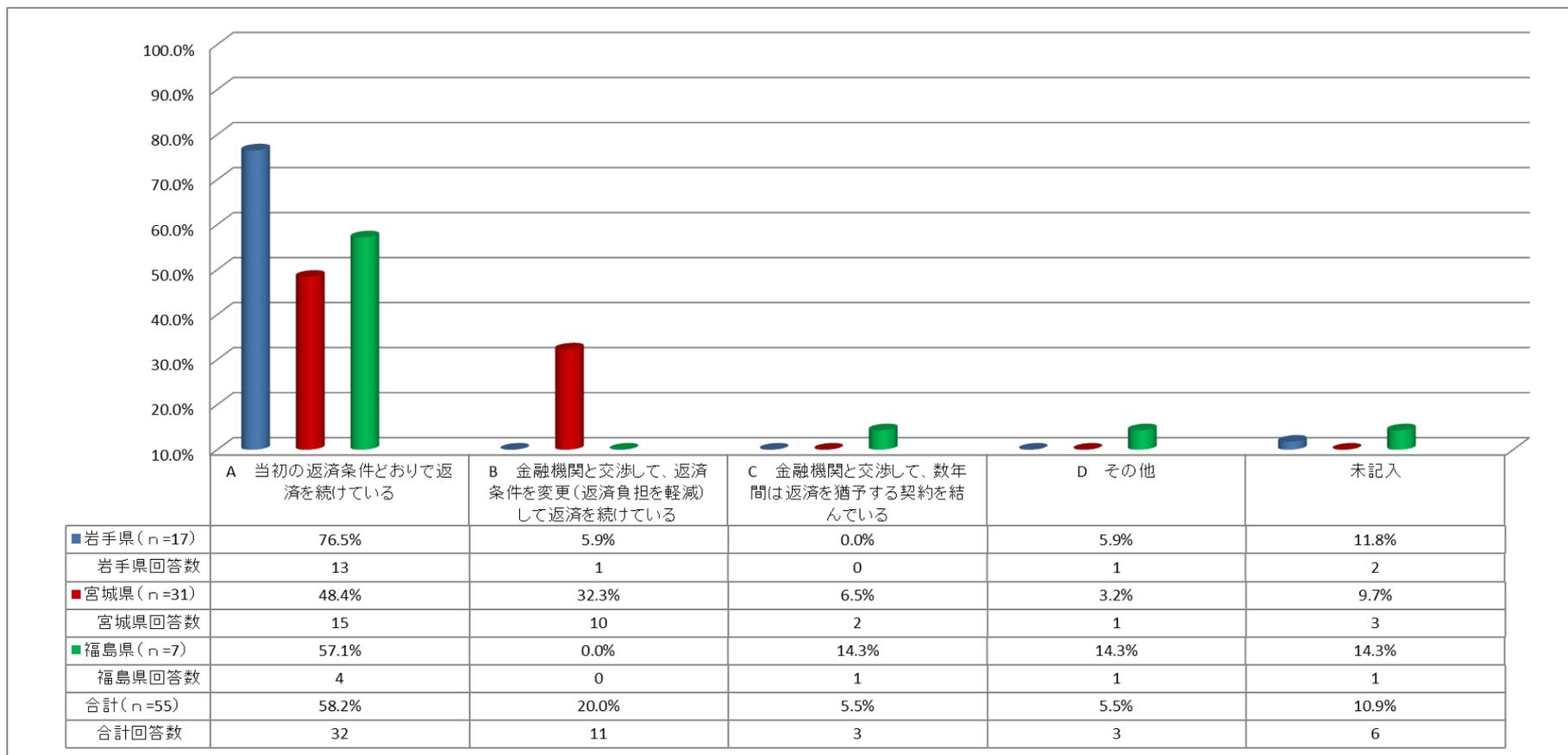
## ■調査結果の要約

質問:「B 残っていない」とお答えの方に質問です。あなたは「個人版私的整理ガイドライン」を知っていますか？



## ■ 調査結果の要約

質問:「A 残っている」とお答えの方に質問です。住宅ローンの返済はどのようにされていますか？



### 【D その他】の主な内容

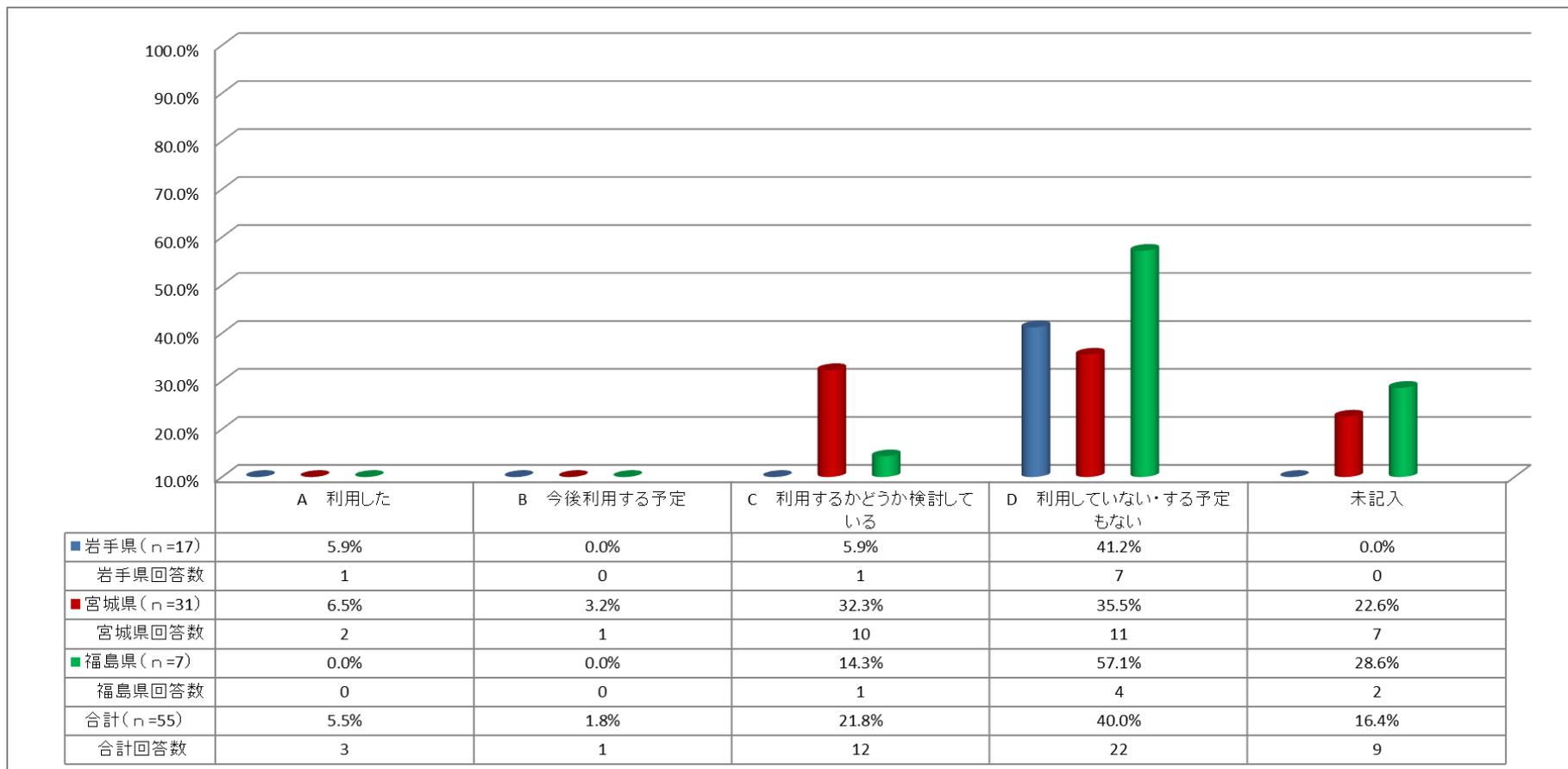
岩手県: 現在当制度を利用中

宮城県: 当制度を弁護士に頼んでいるが銀行の返事を一年以上も待っている

福島県: 分からない

## ■調査結果の要約

質問:「A 残っている」とお答えの方に質問です。「個人版私的整理ガイドライン」を実際に利用されましたか？



※各項目理由は次ページに記載

## ■ 調査結果の要約

質問:「A 残っている」とお答えの方に質問です。「個人版私的整理ガイドライン」を実際に利用されましたか？

※各項目理由

### 【A 利用した】の主な内容

- ・二重ローン等になる恐れがあったから
- ・ローンの返済に困っているから

### 【B 今後利用する予定】の主な内容

- ・現在抱えているローンを免除されても、生活難や資金難で新居の建築ができない

### 【C 利用するかどうか検討している】の主な内容

- ・メリットがあるのか不明
- ・現在抱えているローンを免除されても、生活難や資金難で新居の建築ができない
- ・当ガイドラインの利用にあたって、家族の合意ができていない
- ・集団移転事業等が思うように進んでおらず、再建に関する費用が決まらない
- ・住居の移転先が希望する場所ではないので、仮設住宅や借上げ住居に住み続けるしかない
- ・当ガイドラインの手続きがよくわからないし、手続きが面倒そうであきらめた

### 【D 利用していない・する予定もない】の主な内容

- ・利用できなかった
- ・該当しないとされた
- ・家族が働いているので、今まで通りと考えている
- ・現在抱えているローンを免除されても、生活難や資金難で新居の建築ができない
- ・当ガイドラインの利用にあたって、家族の合意ができていない
- ・住居の移転先が希望する場所ではないので、仮設住宅や借上げ住居に住み続けるしかない
- ・当ガイドラインの手続きがよくわからないし、手続きが面倒そうであきらめた

## ■ 総括①

### 【訪問調査を実施してみた】

- 東日本大震災から3年が経過したこともあり、仮設住宅では既に転居している住宅が多くみられた。
- 土日も含め日中在宅している多くは60代から70代の女性が半数を占めており、全体的に高齢者の回答が多い結果となった。

### 【回答者の行動状況】

- よく見ている(聴いている)ものは「テレビ(全体の92.4%)」、「新聞(全体の57.7%)」、「ラジオ(全体の26.5%)」の順で高かった。
- 移動手段として利用しているものは「自家用車(全体の70.4%)」、「バス(全体の19.3%)」、「徒歩(全体の19.0%)」の順で高かった。

### 【個人版私的整理ガイドラインに関する認知・理解度】

- 制度について「知っている」と答えた方は全体の18.5%で、うち岩手県の方は25.4%と宮城県・福島県の方に比べ高い認知度であった。
- 制度について「聞いたことはあるがよくわからない」と答えた方は全体の26.3%で、上記の「知っている」と合わせると全体の44.8%となり、約半数近い人が制度について何らかの認識を持っていることがわかった。
- 制度について「知らない」と答えた方は全体の55.2%で、うち宮城県の方は60.7%と制度について最も認知度が低い結果となった。

### 【個人版私的整理ガイドラインに関する情報入手経路】

- 「テレビ」と答えた方が全体の53.9%と最も高く、次いで「行政からのお知らせ」が全体の40.3%であった。その中で特徴的なのは、岩手県の方は情報入手経路として「行政からのお知らせ」が48.8%と最も高く、「テレビ」は33.3%にとどまっている。逆に福島県の方は「テレビ」が82.9%と最も高く、「行政からのお知らせ」は31.4%にとどまっている。

## ■ 総括②

### 【個人版私的整理ガイドラインのイメージについて】

- 制度について「聞いたことはあるがよくわからない」と答えた方のうち、おおよそ正しい理解をしていると言える回答は「住宅ローンなどの借金を減免する制度(全体の31.1%)」「被災者を支援するための制度(全体の28.0%)」という結果であった。
- それ以外では「わからない・イメージはない(全体の38.9%)」が主な回答であった。
- 制度について「知らない」と答えた方は、「わからない・イメージはない」が全体の約7割と最も高い回答であった。

### 【今後の住まいについて】

- 約半数の方がすでに次の住まいが決まっていると回答しており、その中で「災害公営住宅」と答えた方が全体の48.7%と最も高かった。その中でも宮城県の方は60.2%と高かった。
- 次に「新たに住宅を購入」が24.7%、「もともと住んでいた場所に建替え」が12.8%という結果であった。
- 「復興が進んでいないため未定」と答えた方は全体の12.7%おり、その中でも福島県の方が19.2%、岩手県の方が15.5%と宮城県(9.2%)に比べて高い回答であった。

### 【住宅ローン債務について】

- 「残っていない」と回答した方が全体の95.1%で、「残っている」と回答した方は全体の4.9%にとどまった。
- 「残っている」と回答した方のうち、個人版私的整理ガイドラインについて「知っている」と回答した方は全体の45.5%で、特に岩手県の方は70.6%と宮城県(35.5%)、福島県(28.6%)に比べて高い結果であった。
- 「残っている」と回答した方のうち、個人版私的整理ガイドラインについて「知らない」と回答した方は全体の41.8%で、特に福島県の方は57.1%と最も高かった。

### 【住宅ローン債務が残っている方のローン返済について】

- 「当初の返済条件どおりで返済している」方が全体の58.2%で、特に岩手県の方は76.5%と高かった。また、「金融機関と交渉して条件を変更(負担軽減)して返済している」方が宮城県のみ32.3%と高かった。
- 個人版私的整理ガイドラインの利用については、「利用していない・する予定もない」と回答した方が、全体の40.0%おり、「利用した」、「今後利用する予定」と回答した方は合わせて約7%と低かった。
- 「利用するかどうか検討している」と回答した方は全体の21.8%で、その中で宮城県の方は32.3%と高かった。

## ■ 調査結果からの推察①

### 個人版私的整理ガイドラインについての認知度が低い。

→「知っている(18.5%)」、「聞いたことはあるがよくわからない(26.3%)」、「知らない(55.2%)」

(推察1)これまでテレビ・新聞等のメディアを使って露出を行ってきたが、制度について詳細な内容を伝えきれていなかった。

(推察2)今回の調査対象者が仮設住宅居住者のみであり、かつご回答いただいた方の半数以上が高齢者になったということで、「住宅ローン債務なし」が約95%であった。よって、制度について必要性がないあまり、興味を持たれていないことが認知・理解度が低くなった要因と想定される。

### 個人版私的整理ガイドラインに関する情報入手経路は「テレビ」が最も多い。

→「テレビ(53.9%)」、「行政からのお知らせ(40.3%)」、「新聞広告(28.2%)」

(推察)質問1において、対象者が最も見ているものが「テレビ92.4%」であったため、それに比例して情報入手経路で「テレビ」と回答した方が多くなったと推察される。よって、今後の広告展開においても「テレビ」は有効的なツールとして外せないものであると考えられる。

### 岩手県の方の個人版私的整理ガイドラインに関する認知度が比較的高い。

→「知っている(26.5%)」、「情報入手経路「行政からのお知らせ(48.8%)」

(推察)制度に関する情報入手経路で「行政からのお知らせ」が約5割と、宮城県・福島県で最も回答の多かった「テレビ」よりも高く、自治体のきめ細やかな対応がこの結果を導いていると推察される。

## ■ 調査結果からの推察②

### 個人版私的整理ガイドラインの内容について、あまり理解されていない。

→制度について聞いたことはあるがよくわからないと回答した方:「わからない(38.9%)」、「手続きが面倒そう(11.9%)」

(推察)何となく制度の内容を理解している方も多いが【被災者を支援するための制度(28.0%)、住宅ローンなどの借金を減免する制度(31.1%)】、多くは制度についての正しい理解がされていない。そもそも制度の必要性がない(住宅ローン債務なし)方も多かったため、理解する必要がなく「わからない」が増えたことも推察される。

### 「住宅ローン債務が残っている」という方で個人版私的整理ガイドラインを知っている方は約半数。

→「知っている(45.5%)」、「聞いたことはあるがよくわからない(12.7%)」、「知らない(41.8%)」

(推察)「住宅ローン債務が残っている」という方に限ると、制度の認知度は45.5%と、全体の18.5%に比べれば高い数値となっている。自分が対象になるかも知れないといった点で認知度が高くなっていると想定されるが、反面、制度について知らない方も多いため、対策が必要であると推察される。

### 「住宅ローン債務が残っている」という方で通常どおり返済を続けている方は半数以上。

### 「個人版私的整理ガイドライン」の利用を考えている方は少ない。

→「当初の返済条件どおりで返済を続けている(58.2%)」

(推察)上記の通り、個人版私的整理ガイドラインの対象となる方で、制度を知らないまま返済し続けている方も多いため、継続した周知活動が必要であると推察される。

## ■今後の展開案について

### ■個人版私的整理ガイドラインの認知・理解度が低い。

- 継続した周知活動を展開することが必要。
- 制度についてしっかりと理解してもらうための展開が必要。

### ■よく見られている媒体は「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」の順に高い。

- この3媒体を中心に展開し、その見せ方について検討する。
- 「行政からのお知らせ」も高い効果が期待できることから、各自治体へのアプローチを活発化し、より多くの情報を掲載してもらうことが必要。
- 報道機関を巻き込んだ形で、「ニュース」として取り上げてもらうための施策を強化。

### <考え方>

「テレビ／15秒CM」、「新聞／5段広告」、「ラジオ／20秒CM」といった一方的に制度の名称と大まかな概要を伝えるだけの展開では訴求力が弱く、興味を持って見てもらうことが難しい。

よって、個人版私的整理ガイドラインについて、もっと深く入り込んだ見せ方が必要であると考える。

### (例)

- ①実際に制度を利用して、生活再建がかなった方のコメントを紹介する。
- ②モデルケースのみならず、実際の相談の流れをイラストや図式を用いて見せる。
- ③相談相手となる弁護士の顔を見せながら、制度や相談方法に対する不信感を払拭する見せ方。

など

## ■今後の展開案について

### <テレビを使った展開案>

- 「60秒インフォメーションCM」や「ミニ番組」といった比較的長い時間が取れる企画で制度の内容をしっかりと伝える。

#### 60秒インフォメーションCM

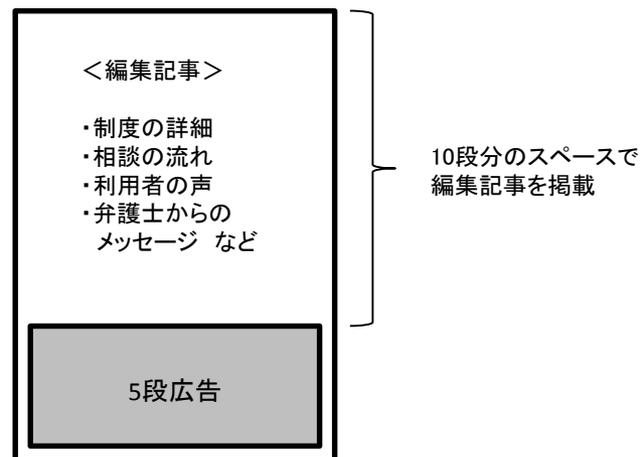
…ある一定の番組前後で60秒のCM枠を固定で取り、その中でインフォメーションCMを放送する。

#### ミニ番組

…2分30秒のミニ番組枠でレギュラー放送を行う。(3カ月間で13回シリーズ放送等)

### <新聞を使った展開案>

- 通常の記事下ディスプレイ広告ではなく、編集記事としてイラストや図式を用いながら制度についてわかりやすく解説していく展開。



## ■今後の展開案について

### <ラジオを使った展開案>

- 「ミニ番組」や「ラジオインタビュー」といった比較的長い時間が取れる企画で制度の内容をしっかりと伝える。

#### ミニ番組

- …番組内もしくはある一定の時間で5分程度のミニ番組枠を固定で取り、  
その中でインフォメーションCMを放送する。

#### ラジオインタビュー

- …番組内において、パーソナリティから電話が入り、質疑応答をしながら  
詳細を伝えていく展開。

### <その他の展開案>

- これまで同様に独自で集客を行いセミナーや相談会を開催するよりも、人がより多く集まる場所での  
イベント展開(ブース出展)により、認知促進を図っていく展開。

(例)イオンモール各店、その他ショッピングセンター等

## ■今後の展開案について

### <継続した調査実施>

今回は「仮設住宅」に絞った訪問調査からデータを導いたため、50代以上の高齢者のサンプルが多く、20～40代のサンプル数が少ない結果となりました。この状況から、「住宅ローン債務が残っている」との回答が全体の4.9%と低くなっているように推察されます。

よって、20～40代のサンプル数を増やすことができれば、より正確な制度対象者の傾向が見えてくるように思われるため、継続した調査を実施することも視野に検討することが必要であると考えます。

### 【20～40代のサンプル数を増やすための調査方法案】

- 新聞社と協力し、一般公募型のアンケート調査を実施。

(例)新聞紙面にて

「よりよい被災者支援のための、アンケートにご協力をお願いします。」

20代～40代の方で、東日本大震災により住宅を失った方が対象。詳細は東北財務局ホームページで。



今回実施した内容と同じ項目でアンケート記入ができるサイトを制作。

回答いただいた方に景品(QUOカード500円分等)をプレゼントする。 など